万円の増です。

争業に配分しました。

市 議 会 だ ょ IJ こだいら

2

X

会

保

会

会

슷

숲

事 道

事

険

計

計

計

平成14年度予算規模

金 分

47,118,000

10,605,700

12,037,792

6,247,900

6,203,900

1,667,000

例会最終日の本会議で可決され は、次のとおりです。 の特別会計予算が、それぞれ予 ました。市長の提案説明の概要 算特別委員会の審査を経て、定 平成4年度一般会計及び5つ 471億1,800元 前年度に比べて04%の減

숲

老特

介特下特

受 特

民 健 康 保

特 別 숲

人別

護 保

別

別

別

水 道

水

千9百万円の減です。 百万円で、前年度に比べ1億9 一般会計 歳入 回復傾向にあった市税 予算総額は、4百7億1千8

億2千百72万2千円の増です。

79万2千円で、前年度に比べ3

予算総額は、百2億3千7百

が再び減に転じ、中でも市民税

は、個人・法人分合わせて10億

ついては、全額を支払基金交付 金を見込み、審査支払手数料に

円の増です。

支出金及び一般会計からの繰入

払基金交付金、国庫支出金、都

歳入 法定割合に基づき、支

などを予定しています。

受託水道事業特別会計

水道施設の維持管理費

円近い減となっています。これ の2倍を計上しましたが、市債 なり、臨時財政対策債は前年度 えました。また繰越金を⊗億円 により普通交付税が大幅な増と 見込み、財政調整基金繰入金を 総額は、償還元金の範囲内に抑 の対応と市民生活に直結する各 /億4千万円計上しています。 |しを行い、市政の緊急課題へ 出 徹底した事務事業の見 【介護保険事業特別会計】 の増加を見込み、1万8千百40 6万円です。対象者数は約千人 万円で、前年度予算に比べり億 金として計上しました。 人と推計しました。 予算総額は、2億4千7百9 歳出
大部分が医療諸費で、 **人当たりの医療費は、年間約**

円で、前年度に比べ2千7百62 付費交付金は4・5%の減、都 支出金は1・2%の増、療養給 国民健康保険事業特別会計 深険税は3・1%の増、国庫 成入 前年度に比べ、国民健 予算総額は、百6億5百7万 政安定化基金への拠出金等を計 め、保険料、国庫支出金、支払 険事業の運営に要する経費、財 ほか、介護認定審査等の介護保 計からの繰入金を計上しました。 億4千2百51万9千円を見込む 歳出 保険給付費として、59 **季金交付金、都支出金、一般会 蔵入 保険給付等に充てるた** 千3百20万円の増です。

万円の増です。 【下水道事業特別会計】 で、前年度に比べ4億3千百20 予算総額は、6億3百9万円

付費の年度区分が変更したため

歳出 保険給付費は、療養給

でいます。

支出金は13・5%の減を見込ん

般会計予算に対する

対前年度

(伸び率

0.4%

0.3%

2.7%

17.1%

7.5%

3.3%

1.9%

計 83,880,292 課題はあるが、全体的な方向性 個々の政策を評価 賛成 フォーラム小平

おり、これは、この4月からの 円で、前年度に比べ5千3百万 度と比べ2・3%の増となって 葉を計画するとともに、 公共下 歳出雨水及び汚水の整備事 予算総額は、16億6千7百万 歳入 下水道使用料は、前年 合 アップを図るべきである。 マとなったものを取り上げる。 検討がなされ、政策にも前向き 全体的な方向性において確実に その中で、細かな課題はあるが、 いかじ取りが要求されている。 いては、駅前の再開発、バリア フリーのまちづくりなど、暮ら な修正がされた点を評価する。 しやすいまちづくりのスピード 第2に、嘱託職員制度につい 第1に、小平市の未来像につ 以下、予算特別委員会でテー 厳しい財政状況のもと、難し

【老人保健特別会計】

改定によるものです。

介護納付金は2・1%の増です。 人保健拠出金は21・5%の増、 前年度に比べ8・7%の減、老

8・1%を占め、そのほか下水 布設がえ、無ライニング管取り なお、本年度の給水人口は、 **蔵入** 東京都からの委託金が 境について、待機児解消を目指 公共施設管理公社の設立も、 野に入れるべきだと考える。 て、今後は、雇用期間や労働時 が必要であると思われる。 また 間についても弾力性のある対処 第3に、子どもを取り巻く環 視

さまざまなメニューがそろ

18万1千人を予定しています。

かえ工事等を施工します。

歳出 道路工事に伴う配水等

使用料徴収事務委託金です。



い始めているが、子育て支援が 求められる。一例を挙げると、 きめ細やかな対応が教育現場に 担う子どもたちのニーズに合う カリキュラムが自由化され、こ ども視野に入れるべきと考える。 はぐくむためにも、学校図書館 めや不登校の問題など、未来を れに伴う学力低下の危惧、いじ 完全週5日制の導入など、教育 市立保育園の民営化への移行な 学習能力や感受性、考える力を 本当の意味で拡充するためにも、 学校教育も、新学習指導要領、

とを強く求め、賛成討論とする。 問題に今後も力を入れていくこ 情報技術を活用し

のバリアフリー 化を推進するこ 力が必要で、学校、家庭、地域 要望する。教育改革は市民の協 成と認定保育室の充実で保育の が一体となり子どもの健全育成 市民サービスが低下しないよう 部局が市庁舎から分かれるが、 務センター を開設し、健康福祉 と等評価する。一方健康福祉事 拡充が図られること、公共空間 に力を入れてほしい。

得られる事業実施に向けて努力 を望む。 小川西町の防災広場整 が計上されたが、市民の納得の て、コミュニティバスの調査費 「安全と快適への希望」とし

開かれた市政を目指した予算を評価 質成 政 和

福祉対策では、健康福祉のまち て、子育て支援対策では、 ーワードに体系づけられた。 提案され、3つの「希望」をキ 育対策では、学童農園事業を実 としての施策に配慮し、学校教 施した点等を評価する。 なる待機児童解消に努め、健康 向けたまちづくり予算」 として 「安心と未来への希望」とし 本予算は、「21世紀の希望に さら は、大沼町に練習場を移転した ル事業の展開等を評価する。 サイクル推進を図るためのモデ 環境対策では、ごみの減量、リ 動・スポーツ・文化振興対策で 況の中、荒波を乗り越えていく サッカー」1リーグ「FC東京」 ための策を講じたこと、市民活 業事業者にとって厳しい経済状 て、産業振興対策では、中小企 「活力と創造への希望」とし

市民合意を十分とってほしい。 て、都市整備対策では、コミュ ニティバスのテスト運行に向け、 「安全と快適への希望」 ح 政の実現としては、住民基本台 財政健全化と便利で開かれた市 ッカー教室を予算計上したこと、 の協力のもと、小・中学校のサ

徹底した事務事業の見直しを 進めていることを評価

低迷の中、あくまでも健全財政 を心がけた予算編成であった。 本予算は、相変わらずの景気

て、子育て支援ボランティア制 ター に子育て女性相談窓口が設 置されること、大沼保育園の完 **度を新たに立ち上げ、健康セン** 「安心と未来への希望」とし

あると考える。 こうした教育の への司書の配置が大きな課題で

り、福祉の向上に役立つ新しい する予算になっていないこと。 は、財政の健全性に固執する余 しを応援し、深刻な状況に対応 **施策の展開がなく、市民の暮ら** 第2の理由は、学童クラブの 反対の最大の理由は、本予算 玊

会や検討委員会が設けられてい 帳ネットワー クシステムの導入 999999999999999999999999 るが、極めて限られた市民参加 も見られないこと。 しか図られておらず、その改善 **懇談会のほか、さまざまな審議** <u>る</u>

切望し、賛成討論とする。 齢者へのさらなる施策の充実を 率的に執行し、あわせて元気高 限られた財源をより重点的、効 子ども議会の開催も評価する。 また市政40周年に当たっての、 以上、予算執行に当たっては、 **要な施策を切り捨てることで乗** 財政危機を住民の暮らしに必 5ること、すなわち住民負担

質成 公明党小平元気クラブ

備、玉川上水緑道の夜間照明設 に負荷をかけないまちとのイメ イクル事業の実施を機に、環境 置等評価する。 また自転車リサ ・ジを定着させてはどうか。 「活力と創造への希望」とし ヾ 曺 そ

持て高く評価する。以上、 ていることは、時代にマッチし ア活動の促進のためにホームペ て、より積極的な商工振興策を 東京」の協力によるサッカー教 た施策であり期待する。「FC ージ等の情報提供の充実を図っ 期待する。 NPO・ボランティ 室の開催などは、未来に希望が 兌 息

を付して賛成とする。 住民の暮らしを応援 されることのないように市は十 で明らかになった。以下問題点 欠如などが予算特別委員会の中 ステムが始まるが、人権が侵害 を指摘する。 住民基本台帳ネットワークシ **嘱託職員問題では、今後市民** に研究し、国にも意見を言っ **沼意識の希薄さ、人権感覚の** いる。 しかし、 相変わらずの 公開していくことが求められ 氏に示し、その使い道につい いくべきである。

反対 旦 **平共産党市議団** する市政を

虳 云問題化されている中、積極 **素とは言いがたく、少子化が** こいう父母の願いに寄り添う の中、安心して子育てがした |校教育を通して、困難な暮ら □点目は、保育、学童クラブ、 2位が図られていないこと。

つの制度を一律に当てはめてい 些 恳 とができない。 時代とともに制 ている。市民サービスの提供 可過ぎにあちこちにひずみが のなく推進し、公としての書 で変えることも必要である。 のでは、ニーズにこたえるこ 1千差万別の形態があり、| **駆後に行財政改革は、余りの** を放棄している点である。 『委託化や職員の嘱託化を歯 ****

スの向上を目指していること、 等、情報技術を活用したサービ

目治意識・人権感覚を持ち 住民参加の市政運営を 反対 緑・生活者ネット

ア算編成となって いるからこ 2前年度比約2億円減の厳し 市税の状況を分かりやすく 守られることを強く要望する。 用をふやすだけでは何の解決に との協働という観点から考える 地方分権の流れも踏まえ、再度 働く人の労働条件、守秘義務が 対した再任用制度が始まるが、 もならない。 また我が会派が反 に開いていくのか、その根本の と、職域をどのようにして市民 議論がないままに、不安定な雇 市民部での閲覧許可問題では、

ぜひ司書資格のある専門職の配 ほしい。 特に、 学校図書室には、 を引き出すような姿勢を持って 子どもに寄り添う、子どもの力 どもを管理するという発想から 教育委員会全体を通して、子 加型の管理運営を研究すべきで う発想ではなく、地域の住民参

人権について学んでほしい

地域センター は建物管理とい

を要望する。 以上、指摘し反対討論とする



4点目は、市民要望にこたえ

ことより安上がりを優先し、

を増大させ、職員を削減し、行 付言して、反対の討論とする。 は、極めて安易な方法であると ことで財政危機を解決すること 政サービスの水準を低下させる